

日本患者・家族団体協議会

11月
1988

SSKOの 仲間No.15

SSKO

〒161 東京都新宿区下落合3-15-29

全腎協内

☎03(952)5347/FAX03(953)1750

購読料1部300円(年間1,500円送料込)

すすんだ実践にためいき

スウェーデンの障害者団体と交流

JPCは九月六日、都内のホテルでスウェーデンの障害者団体RBU（障害を持った幼児と青少年のための全国スウェーデン協会）との交流会を行いました。

この交流会は、同会が東京で行



RBUとのなごやかな交流風景

われたりハビリテーション世界会議出席のため来日したのを機に行われたもの。RBUからは三人、JPCからは十一人、ほか七人が出席しました。

あいさつのおと、昼食をとりながらそれぞれの国の障害者をめぐる状況や社会保障のシステムなどについて情報交換、意見交流を行いました。特にRBUからスウェーデンの障害者団体が国や地方自治体から多額の補助金を受け、それが大きな財政基盤になっていることなどが紹介されると、日頃資金造りに頭を痛め雑貨販売事業などで苦勞をしているJPC出席者からは、日本との大きな違いにためいきを漏らす場面も。

昼食後はRBUのヘレン・ウーグレンさんからスウェーデンの社会保障制度や同会の活動についての講演がありました。

スウェーデンには障害者団体が

約三十団体あり、四十万人の会員がいること、それらは障害者自身によって運営されている団体と障害をもった子どもの家族によって運営されている団体とがあり、RBUはその後者であること、RBUは一九五五年に設立され、現在七団体（筋疾患、二分脊椎症、小人症など）で構成されており、会員は一万六千人いること、中央の事務局はストックホルムにあることなどが紹介されました。また団体の方向性として、障害者・健常者にかかわりなく誰もが参加できる、みんなのための社会の建設をめざし、行政に影響力を与えられるような大きな組織にしていきたいとの発言がありました。

「人間の尊厳・生命の尊厳が何よりも大切にされる社会」をめざしているJPCにとって、国情の違いはあるものの、進んだ実践をおこなっているRBUとの交流会はたいへん勉強になり、また勇気づけられるものでした。お互いにまたの再会を約束しあって約二時間半の交流会を終りました。

（関連記事二面）

特典（海外研修派遣）付協会会員抽選せまる、1987年度に協会会員として入会された方で、1988年度会費をまだ納めていない方は大至急ご送金ください。

RBUとの交流会での ウワグレンさんの話

RBU（障害児全国協会）は、一九五五年に脳性マヒ児の団体として設立され、一九七〇年に組織変更されて筋疾患、二分脊椎、小人症など七疾患の子どもたちの親によって運営される団体として今日に至っており、一万六千人の会員がいます。スウェーデンには二十五の障害者団体があり、約四十万人の会員がいます。そのうち二十二団体がHCKという全国障害者協会に所属しており、こうした障害者の運動はスウェーデンでは社会的にも大きな力をもっています。

スウェーデンの社会保障制度は、新生児から大人まですべての障害者をその対象としています。

十六歳未満の障害児を持つ親は、その子の障害の程度に応じて養育のための保障が受けられます。十六歳以上の障害者の場合にも様々な給付のシステムがあります。

スウェーデンの公的年金制度には、国民基礎年金と国民付加年金があり、老齢年金、障害年金など四種類の年金があります。基礎年金は、全ての国民に最低の水準の年金を保障するもので、付加年金とは働いた

年数と所得に応じて支給され、基礎年金に加えて支給されます。障害が一〇〇%であると判定された障害者には、基本額の九六%に相当する最大限の年金が支給されます。

スウェーデンでは、障害者に対して幅広い福祉が保障されています。例えば、医学的ケアカリハビリの費用は一定額（現在は六〇クローネ）以上は無料であること、低い家賃でアパートや家が借りられること、家でも学校でも職場でも必要なヘルプサービスが受けられることなどで

スウェーデンの社会保険には主に現物給付と現金給付による医療保険、現金給付と現物サービスによる無拠出の保険、老齢年金、障害年金、家族年金、介護給付などの年金保険、あるいは子どもの小遣いなどの現金サービスなど四つのシステムがあります。

これらのシステムの巨額の財源は、雇用主、政府、地方自治体が負担し、中央では国の社会保険委員会が管理し、地方では、二十六の地方社会保険会社が管理しています。

スウェーデンの社会保険体系は、十九世紀にドイツ、イギリスの影響をうけ二十世紀に発達したものです。

2

秋晴れの秋田で経験交流！

第17回地難連交流会

九月十七・十八日、秋晴れの秋田市内で地難連第十七回全国交流会が行われました。参加者は十四地域難病連の代表二十二人をはじめ四十四人が参加しました。JPCからは事務局がオブザーバーで参加しました。

秋田難病連代表のあいさつのあと、伊藤建雄北海道難病連事務局長から医療・福祉に関する情勢報告がありました。ここでは特に「国保安定化計画」のなかで医療費水準を具体的な指数で表わすよう指示されている問題などにふれ、「人間の生命

や健康は平均や指数という言葉では計れない」と強い調子で医療費抑制政策についての批判的な見解を述べました。

このあと各団体から活動報告が行われ、医療相談会や難病検診などを行ったという報告が各難病連から数多く出され、今後この活動をさらに拡げていくために団体間の経験交流・情報交換に力を入れて行くことが必要であるとの意見が出されました。このほか事務局専従体制の確立などについても話し合われました。

また、今交流会の大きな議題の一つであり、かねてから懸案となっていた地難連交流会のあり方については、様々な意見が参加者から出されたものの、最終的には交流の場はJPCの全国交流会に集中していく方向が明らかにされ、来年度の地難連交流会はJPC全国交流会と同時開催して行くことなどを決めました。

最後に、これからも各難病連間で結束を強め、運動を拡げていくことを全員で確認し交流会は終了しました。



エイズ予防法案を廃案に

JPCや全国へモフィリア友の会などが「人権やプライバシーを侵す」として強く反対し、先の通常国会で継続審議になっていた「エイズ予防法」案は、延長後の臨時国会でエイズ感染の血友病患者向けの「救済策」を決める一方、自民・民社両党による医師の報告義務を決めた条文の対象から血友病患者を除外するなどの修正案を、十月二十七日の衆院社労委で両党賛成で可決しました。

同友の会は、①「救済策」は国や企業の責任を棚上げにするもの②修正案は血友病患者を「特例」扱いすることにかえって差別、偏見を助長



する③エイズに関する誤った恐怖心を広げ強権的立法をすることは患者を潜在化させるなどかえって弊害が大きいとして衆院各党議員への働きかけを強める一方で、他団体にも廃案を求める運動への支援を要請していました。

JPCに対しても十月二十一日同会から支援要請があり、二十五日、緊急に同会と共同して社会労働委員会理事を中心に法案の廃案を求めて要請行動を行いました。二十五日の要請行動には、JPC加盟の四団体代表と全国へモフィリア友の会代表あわせて十二人が衆院社会労働委員会各党理事らを訪れ、同法案の即時廃案を強く訴えました。(写真)

二十七日の同法案衆院可決にあたって民社党は賛成しましたが、五月にJPCとへモフィリア友の会が共催で開いた「各党にきく会」で同党代表(社労委員長)は、「審議をつくした上で最終的には廃案に追い込む」としていただけに、同党に対しては強い批判がだされています。同法案が参院にまわされた新たな段階で、人権侵害の同法案反対の運動を一層強める必要があります。

医療・福祉のうごき

9月

▽3日 アジアで初めての「リハビリテーション世界会議」が五日から九日まで東京・新宿など都内四会場で開催された。

▽7日 厚生省の「腎不全対策推進会議」は移植コーディネーターの導入や腎提供財団の設立など腎移植の推進に重点を置いた報告書をまとめた。

▽15日 総務庁統計局の発表によると、六十五歳以上の人口は千三百七十七万人で総人口の一・二%を占める。また二〇〇〇年には、総人口の一・三%を占めると推計。

▽16日 組合健保の六十二度収支決算で初めて赤字に転落したと健康保険組合連合会が発表。老人保健への拠出金が大幅に増えたことが主な原因としてい

▽18日 政管健保の六十二度収支決算は七年連続黒字となったが、前年度に比べ黒字幅は大幅に落ち込んだと厚生省が発表。これも老人保健への拠出金の急増が原因としている。

▽25日 年金、医療保険、生活保護などで国民に支払われた六十一年度の社会保障給付費は三十八兆五千九百四十二億円と社会保障研究所が発表。

10月

▽10日 日本医師会が医療保険制度の統合一本化について提言。当面、地域保険、職域保険、高齢保険の三本立てを提唱し特に老人保健制度に代わる高齢保険は対象年齢を七十歳から六十五歳に引き下げるなどを内容としている。

▽25日 政府が福祉ビジョンを提示、厚生年金などの年金支給開始年齢を現行の六十歳から六十五歳に移行することなどとしている。

老人保健拠出金

七十歳以上(寝たきりなどは六十五歳以上)を対象にした老人保健制度は、患者負担を除いた医療費の七〇%が組合健保、国保、政管健保などの各医療保険制度から

の拠出金で、残る三〇%を公費負担(国二〇%、都道府県、市町村各五%)でまかなう仕組みとなっています。このため老人医療費の増大の伴って拠出金も膨らみ老人保健法の「改正」で組合健保などの負担が急増しました。

がんばれ患者会

こんな活動しています

チームワークで当日まで

静岡県難病団体連絡協議会は、五十八年五月に静岡県総合社会福祉会館の完成とともに結成し、その四階に事務所を持っています。

当初は十団体、現在は十三団体三千五百人の仲間が参加し、今年度は「①難病患者が安心して長期療養できるよう施設の拡充をめざそう②身体障害者福祉法の改正により、難病患者も福祉法の適用を

③難病患者の医療相談、検診会を県単事業として拡充しよう」の実現を、六月十九日に行われた定期総会で全会一致で決議しました。

なんといいっても私たちの最大の事業は医療相談を実施することです、今年も県の協力は得られませんでした。九月二十五日に浜松福祉文化会館で「第四回合同医療・生活相談会」を実施しました。これまでは静岡市で実施してきましたが、横に長い静岡県の地理的条件、障害の重い会員の事情を考

え、今年度は西部地区の浜松市で行いました。十人を超えるアドバイザーを要する相談会をはじめ地域の地域で実施することは大変なことで、会場を借りるにも二月に手続きを行い、十団体、十六人のアドバイザーと十人のボランティアと折衝して確定するまでに五カ月の時間を要しました。

医療・生活相談会を実施して

会員にできるだけ参加してもらいたい、アドバイザーやボランティアの方に負担はかけたくない。そこで県難連の常任理事のほか、

現地でも各会の役員の中から担当者を出してもらい、静岡、浜松で計五回の打合せ会を持ちました。

主な折衝や調整、まとめ等は三役が担当しましたが、各会もそれぞれつながりのある団体や先生と折衝し、そのチームワークで当日を迎えました。前日から現地に泊

4

まり込んだ役員は、天皇陛下の病状悪化やオリンピックの開催という大きなニュースが続き、相談会の広報がいつもにくらべて十分でないことや台風を思わせる大雨に気をもみながら朝を迎えました。

会場には115人が参加

午前七時、予定どおり開催を決め、午前九時から掛けつけてくださったボランティアの方や現地役員の人たちと準備をすすめました

静岡県難病連

が、受付をはじめ十二時まではまったく落ち着きませんでした。

午後十二時、二階受付の前に五十人を超える人たちが集まったとき、やっといつもの相談会を迎える気分になりました。参加者は相談開始の一時までいつもより数は減りましたが、三三五訪れ最終的には百十五人が参加しました。

神経難病の方は、どうだろうか、生活相談の方は、リハビリの会場は階が違うので参加者がいるだろ

うか、せっかくの機会だから復数の会場を利用してもらう。駐車場に困る人はいないだろうか。みんな力を合わせて頑張りました。

午後四時、会場を整理し特別に貸していただいた駐車場の確認を済ませたときホッとしましたが、皮肉にも雨はほぼやんでいました。朝からこのくらいだったらなァと話し合いながら相談会が無事に済んだことを喜びました。事務局 千四二〇 静岡市駿府町 一七〇 県総合社会福祉会館内

☎ 〇五四二五四一五二四六



会場には切実な相談が寄せられる



苦しみに会ったことは 私にとつてしあわせでした

全腎協 田代 直子

「セットカウント二対〇、福岡高校の勝ち」審判の声がここの東京代々木第二体育館に聞こえた。「勝った」はじめて参加できた全国定時制・通信制卓球大会で一回戦を勝ったのだ、私は観客席にいる父にVサインを送った。

透析、移植、拒絶反応：

私は、八歳で腎臓病と診断され、今年で透析十三年目を迎えます。福大病院に入院し、二、三か月で退院できると思ひ込んでいた私の気持を無視するように毎日が検査。そして厳しい安静度と食事制限、ベッド内から一歩も外に出ることもできず不安と悲しみの連続でした。私は先生や看護婦さん、そして両親にも嫌な言葉を言って困らせたことでしょう。そのうち食欲もなくなり、無理に食べてもすぐ吐き出す有様。体はだんだん

衰弱し、意識も朦朧となり、死の一步手前でした。私の病気を治すには腎臓移植しかない。私の体はすでに尿毒症の直前であり、父も母も必死でした。

五十一年十一月早朝。先生、看護婦さん、病室の患者さん、両親、弟、親戚の見送りと声援を受けて、父の腎臓を移植するために東京女子医大に転院し、すぐに内シャントを造り、透析をはじめました。透析中は頭痛がし、吐いたり、大変に苦しいことでした。このような状態が四か月ほど続き、明日は手術という前夜、私は父と何を話したのか今は覚えていません。ただ不安でいっぱいでした。五十二年

二月移植手術、術後のコーヒー牛乳、サラダのおいしかったこと。

二週間程で拒否反応が起き、体が激しく痛み、四十度以上の高熱が続きました。四月に父からもら

病気なんかに負けないぞ!

った大切な腎臓を摘出。五月、約一年ぶりに我が家に帰りました。でも喜びはつかの間、翌日からは透析、学校にもいかなければなりません。長い間の休学で勉強にも、みんなの行動にもついていけず、学校を休むようになりました。あのときは両親も辛かったでしょうが、私はもつと悲しい日々でした。このままではいけないと福岡市郊外の病弱児養護学校に転校しました。

卓球で全国大会

高校は透析と勉強のことを考え、定時制に決めました。高校時代はとても楽しい毎日でした、いろいろの悩みを持ち、それでも明るく、力強くがんばっている仲間と青春を語り、人生を語り、放課後は全国大会出場をめざして卓球に汗を流しました。そして高校三年のとき、初の

東京の全国大会に出場しました。

観客席に待った父と握手をした手がふるえていた。言葉が出なかった。父の目から涙が流れていた。私も泣いた……。福岡

にいる母に電話をした。受話器の向こうで母のふるえる声が聞こえてきた……。結局この大会は三回戦で敗れたが、これを機に私は大きな自信を得た。「病気なんかに負けないぞ」このとき私は高校三年生、十八歳夏、青春まったただななであった。

人の輪を大切に

四年生の夏、再度、全国大会出場をめざしてがんばったが、予選前に熱を出し、がんばりとおした無遅刻、無欠席もさよなら。その日は入院のベッドのなかで、一人シーツがぬれるまで泣きました。福岡高校定時制卒業、卒業式のととき長い私の苦しみ、悲しみが目の前を通り過ぎました、当日は特別賞を受賞しました。

現在は、音楽の専門学校に通ってエレクトーンの勉強をしています。私のために一生懸命がんばったくださった方々、本当にありがとうございます。今後は、たくさんの人に出会って、人の輪を大切にしていきたいと思います。

(福岡県腎協所属)

第1回幹事会

開かれる

JPCは九月二十四、二十五日に都内のホテルで規約改正後はじめの幹事会を開き、二十一団体二十六人が参加しました。

冒頭、伊藤代表幹事から将来の公益法人化に備えて幹事会は毎回議事録を作成したいとの提案があり、第一回幹事会は群馬県難病連の黒崎幹事を議長録署名人に選んで議事に入りました。

小林事務局長が第三回総会後の動きについて報告したあと、厚生省保健医療局疾病対策課の松本義幸課長補佐と同結核・感染症対策室の安高晴二課長補佐の両氏から厚生省予算の六十四年度概算要求に関する行政説明が行われ、若干の質疑応答がありました。

そのあと、医療・福祉をめぐる状況や全国交流集会、国会請願署名についての協議を行い第一日目を終了しました。

二日目は協力会員の拡大、総会代議員選出基準、規約の再整備、加盟団体間の相互援助などについて協議が行われました。

国会請願署名に関連して、請願項



目に臓器移植の促進を求める項目を入れてほしいという意見が出されましたが、協議の結果各加盟団体の中でも意見が一致しておらず今回結論をだすことは難しいとの確認がなされ、今後さらに学習し検討していくこととなりました。

最後に事務局長から来年の全国交流集会は長野県で行いたいという提案があり、これを了承しました。

協議事項終了後、辻川常任幹事から「話し合いを重ね相互理解を深めていこう、次はびわ湖で会いましょう」との挨拶があり、二日間の議事を終了しました。

6

国会請願など協議

第2回常任幹事会

JPCは、九月六、七日、第二回常任幹事会を開きました。この常任幹事会では、主に第一回幹事会の議題、全国交流集会、国会請願活動などを協議しました。

このほか、昨年度同様、家庭雑貨あつせん事業担当者研修会（来年一月二十一、二十二日千葉県勝浦市内会費八千円程度）を行うこと、医療相談会の準備を進めることなどを話し合いました。

全国交流集会

第2回実行委員会

十月二日、全国交流集会第二回実行委員会を会場の滋賀県「びわ湖ツーリストホテル」で行いました。この実行委員会には開催県である滋賀県難病連のほか、京都難病連、大阪難病連、JPC事務局などから八人が出席しました。

会議では各県の役割分担、今後の実務、懇親会の出し物やオークションなどの打ち合わせをしました。その後、ホテル内を全員で見学しいよいよ全国交流集会が目前に迫っていることを実感しました。

県単事業

◆重度障害者（児）の医療費助成（対象） 身体障害者手帳一級二級所持者。精神薄弱の程度が重度の人。精神薄弱の程度が中度で身体障害者手帳三級六級所持者。【所得制限】前年の所得が一千万円以下。【支給内容】 保険給付対象医療費のうち自己負担額を給付。

大阪府

◆指定疾患医療費助成 【対象疾患】 蛋白喪失性腸症、肺線維症、悪性腎硬化症、血友病（十八歳以上） 【支給内容】 血友病の場合病院又は診療所の入院による受療日数が十五日以上に及ぶ月は五千円。血友病以外の疾患は三万円。入院による受療日数が十五日未満または通院による受療の月は五千円。

◆大阪府福祉見舞金 【対象】 一級二級身体障害者手帳所持者、特定疾患患者、重度精神薄弱者児、ねたきり老人、ただし重複支給なし。【支給額】 一級一万円、二級八千円、特定疾患一万円、ねたきり老人、精神薄弱者児一万円。

◆その他 難病啓発事業委託料 百三十二万円を加盟団体に配分する。



安らかな生を

金低肺 横井 克甫

低肺の私ですが、郊外にわずかばかりの菜園があるので、無農薬有機農法で野菜を自給自足しています。

有機農法は微生物農法ともいわれるように、完全堆肥や発酵鶏糞油粕など完熟有機物を土地に施して、土中の有用な微生物を大増殖させ、その分泌物や死骸が作物の栄養となつて、収穫が得られる仕組みの農法です。自然の理にかなっています。

天気の良い日に畑で一動作一休み腹式呼吸をしながら、何十億年も前から続く土中微生物の不思議な世界を空想していると、発芽した人參や大根の芽が一日一日育っていくのが、誠に自然の恵みと感謝されます。

アメリカでは安い米が作られて、しきりに日本に売りこもうとしますが、あれは地球から作物を収穫する農耕であつて、いつかは行き詰まる農法ではないかと思ひます。

地球上で人間が自然と調和した関係を失わず、安らかに美しく暮らしたいものだなあ。そんなことを考え、流れゆく白い雲を仰いだり、大根や人參の間引きをしています。

2年がかりで

記念誌を発行

多发性硬化 嶺岸 禮三
症友の会

私たちが友の会は、会結成以来十七年になります。この夏、待望の「十五周年記念文集」が多くの会員とボランティアの人たちの協力で完成しました。当初は、会員の日記を中心にした「文集」をと思つていましたが、だんだん欲がでて十五年の会史や会員の実態、病気の概要なども掲載することとし、一年計画で準備しました。やはりはじめると、なかなか大仕事で、特に会史は骨の折れる作業でした。編集者も勤めながら暇をみてる仕事のため能率が上がらず、結局倍の期間がかかり、発行に二年の月日を要しました。しかし、その苦勞も、記念誌を読んだ会員から感想文が多く寄せられ、吹き飛んでし

まうようです。大変だったあとだけに充実感にひたる今日この頃です。

私たちの会は、活動家不足が深刻です。これまで会の運営は会員自身の手で進めてきましたが、今年からは、病氣となどの関係もないご夫妻のご好意に甘えて事務局をお願いすることにになりました。よく気のつく神経の細やかな方だけに、なにかと頼りきつて、みんなやつてもらっています。これでは、このご夫妻にとつても好ましい状態ではありません。なんとか仕事を分担して会の運営をと思つのですが、実際に働いていただけの人がなく、困っています。どうしたらいいのでしょうか。

どんな障害をもつていようと

福島難病連 中野 誠子

私たちの会は、「先天性四肢障害児父母の会」という名のとおり、生れつき手足の一部や指が欠損している、短い、指がゆ着している、関節が曲がらない、耳が小さいなどの四肢の欠損や、変形している子供を持つ親の会です。昔から先天性四肢障害児・者は、手足の形がいわゆる「正常」よばれる形と少し違っただけで、特別な、普通ではない人間のように見られていました。現在でも先天異

常に対する偏見や差別は依然として根強いものがあります。会員の子供たちの多くが、お腹の赤ちゃんの初期である胎芽期、胎児期になんらかの原因が外から働いて引き起こされたものといわれていますが、原因や実態は把握されていません。

一九七五年に六十家族で発足した会も今は一千家族以上の会員が全国にいます。福島県内には、現在会員が七人、幼稚園から中学生までの小さな子供たちです。実際はこの数倍の人数がいると思われれます。この会の存在を知らない、また外側に見える障害ゆえ、遺伝的劣悪者という見方を恐れ外に出さない、隠してしまふ：などのためかと思われれます。

障害児という一きのごくだ、はじめ、かわいそう」という考え方をされますが、子供たちは、それぞれ持っている機能、能力をフルに發揮してがんばっています。薬物、食物、種々の化学製品など、私たちが取り巻く環境は決して安心できるものではありません。徹底した障害の原因究明は必要ですが、なにより大切なことは、どんな障害を持つていようと、一人の人間として尊重され、ありのままの姿で、自立して生きていけるような社会に少しでも近づこう、努力していくことだと思ひます。

団体通信

▼京都山科地区に連絡会議

今年四月、京都難病連も参加して開かれた「山科ふれあい健康まつり」がきっかけとなり、山科地区に山科地域連絡会議が発足しました。九月にはニュースも発行し、十月三十日には集いを開き今後のとりくみなどについて話し合いが行われました。

▼全腎協が臓器移植促進の請願提出

九月八日、超党派議員の集まりである「生命倫理研究議員連盟」に「臓器移植の促進に関する」請願書二十五万人分を提出しました。この日の請願行動には「肝臓移植を求める患者・家族の会」、「全国腎炎・ネフローゼ児を守る会」の代表もそれぞれ同趣旨の請願書をもって参加しました。

▼全腎協が腎バンク登録街頭キャンペーン

厚生省の「腎移植推進月間」にあわせ、十月九日に第八回「腎バンク登録者拡大全国いっせい街頭キャンペーン」を実施しました。会員、家族、医療関係者などが街頭でチラシを配ったり、テープを流すなどして腎バンクへの登録をよびかけました。また、今年には患者の家族にも献腎を呼びかけるチラシを作り、配布

しました。

▼兵庫難病連が相談会

十月十日、高砂市福祉保健センターで第十二回医療・生活・教育に関する相談会が開かれ、約三百人が訪れました。また同時に腎臓病部会として講演会が開かれ、講演のあと透析に関する相談なども行われました。

▼群馬難病連が十五周年の集い

難病連が発足して十五年を迎えた十月十六日、患者、家族をげますために「結成十五周年のつどい」を前橋市の県教育会館で開きました。立川談春さんの講演、群馬まむれ太鼓の演奏、群難連の歌の発表、抽選会などが行われ約二百人の会員が集まりました。

▼全国心臓病の子供を守る会が全国総会

十月二十三日、石川県・金沢市の石川県社会福祉会館で第二十六回国総会を開きました。午前中に全体会、午後からは医療一般、心臓移植、教育、福祉の四分科会を開きました。参加者は全国から二百五十人。

消費税、消費税とさわいでいる大臣たちはリクルートでポロもつけ。ついでに、庶民の生活のわかる仕事にリクルートしてほしいですね。(佐藤)



あつち山
消費税、消費税とさわいでいる大臣たちはリクルートでポロもつけ。ついでに、庶民の生活のわかる仕事にリクルートしてほしいですね。(佐藤)

日本の医療・福祉と患者運動を考える

全国交流集会'88

記念講演 木下安子先生

テーマ：私たちの求める在宅医療とはなにか

とき：11月19日(土)～20日(日)
(11時から) (12時まで)

ところ：びわ湖ツーリストホテル
〒520 大津市におの浜3-2-25
☎ 0775-24-2321

交通：JR 大津駅よりタクシー5分
JR 大津駅よりバスの場合＝
湖岸道路経由石山方面行
西武百貨店前下車5分

参加費：12,000円(宿泊・4食・懇親会、資料代)
申込み：11月5日まで事務局に(宿泊150人)
主催：JPC(日本患者・家族団体協議会)

プログラム

- 11/19(土)・受付開始 10:00
- ・全体会 11:00
- ・昼食 12:00
- ・記念講演 13:00
- ・分散会 15:00
- ・交流会 18:30
- 11/20(日)・分散会 9:00
- ・全体会 11:00
- ・閉会 12:00

新宿区下落合 3-15-29
全腎協内
☎ 03-952-5347

昭和五十一年二月二十五日第三種郵便物認可
SSKO通巻一八九六号(毎週月・水・金曜日発行)
昭和六十三年十一月二十三日発行

発行所
障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧6-26-21
頒価三百円

目 次

- すすんだ実践にためいき ##
- RBUとに交流会 ##
- エイズ予防法案を廃案に ##
- 医療・福祉のうごき ##
- がんばれ患者会 こんな活動してます ##
- 病気なんかには負けないぞ！ ##
- 第1回幹事会 ##
- たよりの交差点 ##
- 団体通信 ##